

【補正予算】

新都心への2病院

(さいたま日赤・小児医療センター)

移転、準備始まる

—土地鑑定費を予算化—

さいたま新都心8-1A街区への2病院(さいたま日赤・県立小児医療センター)移転をめぐり、12月議会では土地の鑑定費が補正予算として上程され、成立しました。今後、同計画の準備が具体化していきます。

議会では、地元への説明を丁寧に行うこと、現在の小児医療センター跡地(岩槻)の問題、小児医療センター併設の特別支援学校の環境の問題などへの配慮が取り上げられましたが、埼玉県全体に資する施設になるよう要望がなされ、予算が認められました。

【12月議会継続審査⇒2月議会採決へ】

埼玉県の新5か年計画、提案される

現行の計画が今年度までであるのを受け、平成24年度からの県政運営の方向性を示す新たな総合計画として新たな5か年計画が12月議会に提案されました。

新たな時代に即応すべく5つの分野に57の施策を備え、下記のような指標も設定しています。

・保育サービス利用可能な児童数97,473人(平成22年度末)
→目標113,000人(H28年度末)

・新規の企業立地数 →目標 250社

議会では、この知事提案に先立ち、議会の5か年計画をまとめ、知事提案計画の審査の基準とすることにしていきます。詳しい内容は、高木事務所にお問い合わせいただくか、県ホームページで「新たな5か年計画」で検索を。

事務所にお気軽にお出かけください

高木まり事務所は、市議時代と変わらず、宮原駅近くの中山道沿いにあります。ぜひお立ち寄りください。日頃感じることや、県政へのご意見など、何でもどうぞ。

高木本人は県内各地で活動中ですが、のぞいてみたら事務所にいた！ということもあります。平日はスタッフも常駐しておりますので、お気軽にお声かけください。

高木まり事務所
〒331-0812
埼玉県さいたま市北区宮原町2-16-19
TEL/048-654-2559 FAX/048-652-6445
E-mail/takagi@marit.jp

編集後記

皆さん、どのように新しい年のスタートをお迎えでしょうか。今年はこのほか冷える日が多いですが、とにかく災害のない穏やかな一年であってほしいと願うことしきりです。

さて私は、昨年4月の選挙から12月議会での初質問まで、一挙に走りきった感がありましたが、今年はじっくりと落ち着いて、テーマの勉強をしたり、皆さんに県議会のことをお伝えする活動がんばっていきたくと思っています。

今年総選挙がなければいいのだけれど、とも思っています。今、この国も世界も大きな時代の転換点に差し掛かっているため、出口の見えない感じが全体を被っている感じです。でも、こういう時こそ、一つ一つ、できることから力をあわせて進むことが大事ではないでしょうか。(高木)

【条例】

自転車事故をなくそう

→ 自転車条例が成立

—自転車も車輛です。安全運転にご協力を—

皆さんも、猛スピードで飛ばす自転車にヒヤッとしたことはありませんか。全国一自転車の多い埼玉県ですが、近年自転車の危険な運転による事故が増えています。

全国的には先進自治体で、自転車の安全利用を促す条例が作られ、効果を上げています。高木は、市議時代に会派でさいたま市の条例案を提案していたこともあり(残念ながら他会派に阻まれ成立せず)、県でも取り組みの必要を感じていたところ、知事提案があり、成立しました。

各地に安全指導員を配置し、徹底した安全指導が行なわれることとなります。各自気をつけていただき、自転車事故ゼロに向け、ご協力ください。

県政報告会

高木まりプロジェクトミーティングのお知らせ

「県って何をやっているの?」「ニュースを見ていて意見がある!」「自分の住んでいるまちはどうなるの?」...こんなことを考えている皆さん、ぜひお気軽にお出かけください。予約や入場料はいりません。

とき 2月26日(日) 14:00~16:00

テーマ 埼玉県のチャレンジ・2012

ところ プラザノース 第4セミナールーム
さいたま市北区宮原1-852-1 Tel 048-653-9255

交通案内

- *駐車場あり
- *電車:ニューシャトル「加茂宮駅」徒歩5分
- *バス:JR宮原駅より「メディカルセンター行き」本郷住宅下車/JR大宮駅より「上尾行き」北区役所下車

入場無料

民主党・無所属の会

さいたま市北区版 県政レポート 2012.1月発行

発行:民主党・無所属の会 高木まり
事務所:〒331-0812
埼玉県さいたま市北区宮原町2-16-19
TEL/048-654-2559 FAX/048-652-6445
E-mail/takagi@marit.jp

動けば変わる
県政をスリムに
<http://www.marit.jp/>

高木まりの 県政レポート

profile

さいたま市議(2期)を経て、2011年4月より県議。企画財政委員会、地方分権・行財政改革特別委員会所属



新たな時代に向け、県政に提言!

— 高木まり、12月議会での県議会初質問 —

去る12月議会において、高木まりは埼玉県議会での一般質問を行い、「地方分権時代の埼玉県のあるべき姿について」「がん対策について」「長期的視点に立った県有施設の運営・活用について」などを中心に知事への提言を行いました。

今、世界もこの国も大きな転換点に差し掛かっています。先行きが見通しにくい中ではありますが、確実に新たなパラダイムに備えた政策へとシフトしていかなければなりません。

次代が分権社会であることは間違いありませんが、埼玉県政は十分にスリムではありません。また、2人に1人がかかると言われるがんですが、高齢者が急増する埼玉県で、必須となってくる在宅診療と医療機関の充実は、まだこれからです。県有施設も、人口減少していく本県で、計画的なマネジメントがなければ、維持管理もままなりません。

質問の回答には満足できない部分もあり、一層の推進を今後も迫っていきたく考えています。

主な質問項目

- ①分権時代における埼玉県のあるべき姿について
 - ②がん対策について
 - ③長期的視点に立った県有施設の管理・運営について
- 詳しい質問の内容は、中のページをご覧ください。



2月議会 2月20日(月)~3月26日(月)の予定です。

高木は予算委員として審査にあたる予定です。インターネット中継もあるので、ぜひご覧ください。

◆新年にあたり◆ 公選法上、有権者の皆様への年賀状が禁止されております。失礼をお許しください。



現在県立がんセンターは新病院を建設中（伊奈町）。平成25年12月オープン予定。増床（400床→500床）、手術室増設（7室→12室）、国内最大規模の外來用化学療法ベッド（60床）など、充実が図られる。



①分権時代の埼玉県のあるべき姿について

Q (高木) 市町村が自由に使えるお金を

時代は今、「地域のことは地域で決められる」仕組みを必要としている。市町村向けの各種補助金について、今、国でも一括交付金化の試みが始まっており、県としても市町村が自由に使えるお金となるよう、一括交付金化して市町村に交付してはどうか。

A (上田知事)

一括交付金化は県と市町村の関係の中で制度的にありえないと思うが、県の補助金の一部に、市町村が自らの役割として行うような事業が混在している部分については今後も改革していく。



②がん対策について

Q (高木) 高齢化で急増する患者への対応は？

本県では20年後に75歳以上の人口が68万人増加し、単身世帯も増える。増加するがん患者が適切な医療にかかれる体制をつくるには、在宅医療の充実が欠かせない。知事は20年後の患者数をどう予測し、治療体制をどうすべきと考えているのか。また在宅医療を支える資源をどう確保していこうと考えているのか。

A (上田知事)

がん患者は20年後に年間約5万人と推計される。在宅診療については、県立がんセンターが作成した「医療連携手帳」でネットワークを作っていく。また、5年ごとのがん対策推進計画などで適切に対応する。

Q (高木) 患者の不安に向き合う施策の充実を

がんの診断を受けた方は多くの不安を抱えるので、少しでも安心できるサポートをすべきだ。

- 1) がん患者の相談体制は充実しているか。
- 2) がん診断の後、最初に渡される「患者必携」というガイドブックがあるが、全国共通のもので埼玉県の医療資源やサポート情報などが載っていない。県民向けの情報を加えた「埼玉県版患者必携」を作ってはどうか。
(☆)
- 3) 県立がんセンターにチャイルド・ライフ・スペシャリストを配置すべきだと思うがどうか。

A (保健医療部長/病院事業管理者)

- 1) 県内11カ所の「がん診療連携拠点病院」に「相談支援センター」を、県内6ヶ所の「県がん診療指定病院」においても、相談員を配置し対応しているが、なお一層の充実を目指す。
- 2) 全国版の患者必携で必要な情報が概ね盛り込まれているので、県版は作らない。
- 3) 医療現場でも専門職としての必要性が認識されているので、県立病院への配置を検討していく。

☆私が「チャイルド・ライフ・スペシャリスト」が必要と考えるようになったわけ

昨年9月に同級生が亡くなりました。彼女の死因はがん。検診ではまず見つからず、極めて進行が早いと言われるスキルス性胃がんでした。半年前まで体調に何の変化もなかったのです。

余命半年の宣告に彼女が一番心配したのが、まだ小学校に入学したばかりの娘さんのことでした。どう病を伝え、どう子どもが母の死を受け止めていけるようにしたらいいのか、答えを探す毎日でした。

調べるうち、アメリカでは同じような境遇の親子を支える「チャイルド・ライフ・スペシャリスト」という資格者が病院に勤務していることを知ります。

私にもまだ小さい子どもがおり、彼女の悩みは痛いほどよくわかります。同じような境遇で悩む親子のために、新しいがんセンターにぜひ配置できないかと思いました。チャイルド・ライフ・スペシャリストは、子ども自身が患者として治療を受ける場合にも、その子に寄り添って精神面から治療を支える仕事をします。県立小児医療センターでも活躍してもらえれば、より多くの子どもを救えるので、今回の「配置を検討」という回答が実現することを、強く期待したいと思います。

③長期的視点に立った県有施設の管理・運営について

Q (高木)

人口減少に伴う収収減が予測される本県では、「公共施設マネジメント計画」といったものを作り、膨大な県有施設を一括して戦略的に管理・運営する必要がある。またその際には人口減少や人口構成の変化などを踏まえて、施設の統廃合も検討すべきだが、どう取り組む考えか。しっかり進めるための担当部署設置はどうか。

A (上田知事)

平成22年度に行われた包括外部監査で、全庁的な「アセットマネジメントの導入準備として、県有施設について中長期の修繕計画を策定する必要がある」という指摘を受けており、現在「中長期修繕計画」を策定中だが、策定の上は提言内容もしっかり含めていきたい。また担当部署の設置は、進捗状況を見て検討していく。



多くが建設後30年以上。大規模な修繕や改修が必要な時期を迎えている。